

T 2 K オープンスパコン東大版システム運用開始式典について（報告）

6月2日（月）情報基盤センターでは、T 2 K オープンスパコン東大版システムの運用を開始すると記者発表を行いました。このT 2 K オープンスパコンは、東京大学情報基盤センター、筑波大学計算科学研究センター、京都大学学術情報メディアセンターの3大学による共同開発した仕様を基に3大学がそれぞれにスパコンを調達したものであり、東大版は総演算性能 140 テラフロップスを有し、国内最速のスーパーコンピュータとなるものです。



記者発表をする米澤センター長と石川教授

同日、武田先端知ビル武田ホールにおいて、第一部「T 2 K オープンスパコン東大版システム運用開始式典」、第二部「T 2 K シンポジウムーT 2 K オープンスパコンによるペタスケール計算への道一」が開催されました。大学関係者 77 名と一般企業 86 名の 163 名の参加者を迎えて盛会のうちに行われました。

第一部の式典は、米澤明憲情報基盤センター長の開催挨拶に始まり、岡村定矩理事・副学長の祝辞に続き、勝野頼彦文部科学省情報課長から祝辞がありました。引続き、石川裕情報基盤センター教授から、T 2 K オープンスパコン東大版と新サービスの紹介がありました。

第二部のシンポジウムは、同会場にて、筑波大学、京都大学とTV会議システムを使用して開催されました。初めに、米澤センター長の開催挨拶に始まり、美濃導彦京都大学学術情報メディアセンター長、朴泰祐筑波大学計算科学研究副センター長の挨拶の後、関根仁博文部科学省情報課情報科学技術研究企画官の挨拶がありました。



岡村理事・副学長



勝野文部科学省情報課長

引続き、関根仁博文部科学省情報課情報科学技術研究企画官がパネリストとして発表の後、姫野龍太郎理化学研究所情報基盤センター長、吉川耕司筑波大学計算科学研究センター講師、朴泰祐筑波大学計算科学研究副センター長、羽角博康東京大学気候システム研究センター准教授、片桐孝洋東京大学情報基盤センター特任准教授、大村善治京都大学生存圏研究所教授、中島浩京都大学学術情報メディアセンター教授による発表が行われた後、活発な意見交換が交わされました。



T2Kシンポジウム

本センターでは、3大学間で協定を結び、T2Kオープンスパコンを利用した計算科学・工学分野におけるネットワーク型研究推進、人材育成、アプリケーション高度化支援体制が始動したところです。